

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人筑波技術大学

1 全体評価

筑波技術大学は、聴覚・視覚障害者のための高等教育に関する我が国の中心的役割を果たすことを基本的目標として、社会自立できる産業技術・保健科学・情報保障学の専門職業人を養成することを目指している。第3期中期目標期間においては、障害や専門性に即したアクティブラーニングの手法によりグローバル社会に適応できる人材を育成するとともに、聴覚・視覚障害教育分野に関する国際的水準の研究を展開し、国内外の研究をリードすることに加え、障害者の教育、支援に関する知見を広く国内外に発信し、障害者の能力向上と社会のバリアフリー化、ユニバーサル化に寄与し、障害者の能力を十分発揮できる社会の実現に貢献することを目指している。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、聴覚障害者の安全に配慮した設備の整備に取り組むとともに、視覚障害学生用の授業・学修資料の整備とユニバーサル教材提供サービスを構築するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 新任教員に対する研修指導として、手話や字幕を使用し視覚的情報も活用した授業方法に関する指導や手話コミュニケーション研修を実施するとともに、リアルタイム字幕提示システムを活用した遠隔情報保障（授業等309コマ、会議等11回）やパソコン要約筆記（授業等208コマ、会議等16回）、字幕入りDVD教材（7教材）の作成等を実施し、聴覚障害学生に対する情報保障支援体制を構築している。（ユニット「障害学生の障害特性及び発達障害に即した教育の推進」に関する取組）
- 事務局を担う日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）における会員大学等の協力による相談支援体制を構築し、年間561件の問合せに応じて専門的なコンサルティングを提供した結果、在学する聴覚障害学生に対して、ゼロからの体制構築の支援やキャンパス間又は大学間での遠隔情報保障システムの導入を実現している。（ユニット「障害者差別解消事態に対応した障害学生支援拠点の形成とネットワークの構築」に関する取組）
- 茨城県内大学及び障がい者関係団体との共催により、「第11回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント」を開催し、障害者及び健常者合計165名が参加（平成27年度比217%増）している。参加者はイベントを通じて運動する機会が増加し、スポーツ団体設立やイベントを開催するなど、地域の障害者スポーツ振興への役割を果たしている。（ユニット「共生社会実現に向けた障害者スポーツの推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 聴覚障害者の安全に、より配慮した設備の整備

聴覚障害学生及び教員が主に使用する天久保キャンパス（学生寄宿舍、校舎棟、特殊実験棟、メディアセンター、大学会館等）の設備について、災害時の情報提示に加え、緊急地震速報と連動した情報提示を行えるよう既存のCATVを活用した緊急時文字情報提供システム更新を実施するとともに、災害の種類に応じて光が点滅する大学特有の三色灯（聴覚障害学生及び教員に対し視覚的に情報を提供する装置）を更新するなど、障害者支援を目的とした他大学の参考となる取組を実施している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 障害者高等教育研究支援センターの取組

「障害学生への支援強化とグローバル化」の一環として、「視覚障害学生のための修学・就職支援を目的としたアクセシブル教材を利活用したアクティブ・ラーニング環境構築事業」において、視覚障害学生用授業・学修資料の整備とユニバーサル教材提供サービスの構築しており、事業において制作した計86冊の点訳書情報を大学のウェブサイトで公開するとともに、障害学生支援室を開設している全国の大学に情報提供している。

○ 工学・デザイン学複合領域のプロジェクト研究の活性化

産業技術学部、保健科学部、障害者高等教育研究支援センターの教員が構成するプロジェクトにおいて、聴覚・視覚に障害を有する人たちがスポーツ観戦をリアルに楽しむための情報保障を目指して、ISee TimeLine (ISeeTL) のシステム開発とスポーツ観戦における情報保障実験を継続しており、茨城県とつくば市の承認を得て、2019年のいきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会でISeeTLを用いた情報保障の実施が決定している。

○ ユニバーサルデザインや障害理解の実現に向けた取組

ユニバーサルデザインや障害理解を目的として、つくば市の新人職員を対象にユニバーサルデザイン研修において、大学の聴覚障害学生が立案した講座も含んだ体験型講座（視覚障害疑似体験、聴覚障害者とのコミュニケーション体験、市庁舎ユニバーサルデザイン探索）やユニバーサルサービスの理解を深めるための講演を実施している。